

セルリの栽培 (六)

大 岩 金

定 植

充分根の張つた苗が出来上ると本畑に植出さねばなりません。是を定植と申します。

苗床から苗を取る時特に注意を要しますことは無理に抜く爲に腰折れ苗を作ります。苗の腰が折れますと根がよく張つて居りましても生育が一時中止されますのでセルリ生産上大きな打撃であります。

注意して取つた苗は平に整地された本畑へ運ばれます。本畑は丁寧に整地してから畦が南北に正しく出来る様に綱等を張ります。畦が南北にする

事は日光を各々の株に當らせる爲であります。植付けする位置が定まりましたら籠様のもので小孔を造つて摘心した苗を植付けます。摘心とは苗の心を少々摘み取るのであります。是は苗の乾燥に依る枯死を防ぐために、水分を發散する葉を取るのであります。

定植の距離

植付ける距離は軟白する方法及土壤の肥瘠等に依つて決定されるものであります。軟白するとは彼の葱で御覽の様にセルリの莖に葉緑素の出来ぬ様にする事であります。

軟白の方法にも種々ありますが主なものは板圍に依るものと、覆土に依るものと自身の生育に依る鬱密に依るの三方法であります。板圍に依ります時は三フイトの畦間に四インチの株間といふ程度のもが行はれます。覆土に依ります時は普通四——五フイトの畦間で株間は六インチ位として二畦造り二列おきに六フイト位の空地をおく必要があります。前者は板の經濟後者は土地の經濟等を講究して種々の方法がありますが軟白の方法に關しては後、項を新にして記述しやうと思ひます。次に植付距離に關する一例を表示致します。

畦 巾	株 間	軟白方法	板使用量	苗の本數
單位フイト	單位インチ	板	一エーカーニ付	二エーカーニ付
三(一列)四	四	板	二九・〇〇	四四・〇〇〇
四(二列)六×六	六	"	二二・〇〇〇	四四・〇〇〇
五(一列)四	四	土		三五・〇〇〇
六(二列)六×六	六	土		二八・〇〇〇
八インチ八	八	自身		四九・〇〇〇

以上の距離は多年の經驗から出たもので最も有利なものであるさうであります。是が爲には相當多くの勞力を要するものであります。併し需用の如何に依つては軟白方法を一時に行ふ事なく必要に應じて施行するのが有利であります。

一般にセルリはあまり瘠せた土地へは栽培されませんが土壤が瘠せて居れば作物の繁茂も少ない譯でありますから植付距離も近くてよいのであります。

中 耕

苗を本畑に定植してから軟白を始める迄の間になすべき仕事としましては畦間の耕耨即ち中耕であります。是はなるべく屢々行ふ程良結果が見られるのであります。目的は稻の田の草取りと同様に除草する事も目的の一つであります。是と共に土壤を攪拌する爲に土中に多くの日光及び酸素

を給與し肥効を良好ならしめる事が其の二であります。尙其の三として乾燥防止の役をも兼る事は毛細管現象を斷つ事に依つて行はれます。

耕し法は始めの中は比較的根際を深く行ひます。成長するに従つて淺く且つあまり根際でない處を耕すのであります。益々苗が生育繁茂して來ますと自然と地表を覆ひまして次第に雜草も生じなくなり、乾燥も防止される譯であります。がやはり耕耨は行ふ方が有利であります。

序でありますから中耕する道具に就て述べておきます。大規模の栽培の場合は勞力を省く爲に工夫された専門のものがあります。が一般家庭に於て使用されるものとしましては鋤があれば充分であります。が是より一步を進めましたもので「レーキ」様のもので柄の短いものを用意しまして是で株間を攪拌して表面を柔げるのも便利であります。

灌 水

セルリは元來低濕地を郷土としますから相當濕潤な土地が要求されることは事實であります。従つて此の缺點を補ふためには灌水といふ仕事も亦セルリ栽培上肝要な事に相違ありません。然し一般には天然の降雨と耕耨とに依りまして殊に人工に依る給水は行はれませんが又一方極小規模の場合におきましては此の方法を行ふのもあへて不利でない事もあります。

大規模の栽培におきましては特に明渠或は暗渠等によりまして水源地から引水して灌水する場合もあります。明渠とは文學通り溝で水を引きますし、暗渠とは土管に依りまして地下に水を引きます。細管現象に依りまして給水する方法で前者に優る事大であります。が經費も相當入用であります。

右何れの方法に依つて灌水しましても水そのもの

のを作物に給與する以外に水分中に溶解して居る養分をも作物に供給するといふ點は特に注意を要する點であります。それが下水道の水等の場合殊にさうであります。

セルリの病氣

小規模栽培の場合には少し注意すれば病氣を蔓延させる様な事はありませんが是に反して大栽培の場合には相當恐るべきものでありますから作物の病氣といふ事に對する概念を示す目的で以下に少し記述します。

抑々發病の重なる原因とも見るべきものは先づ氣温であります。次が濕度であります又土壤及日照等も密接の關係があるものであります。

過濕に依る病氣。此の中には種々ありますが要するに根及莖が腐敗する病氣であります。殊に播種床にあきまして發芽後二週間位の項が最も此の

病氣の爲に根際を侵され易い時であります。

此の病氣の豫防としましては日照をよくする事適度の通風を計ること、降雨の多過ぎる場合の如きは雨除をする事等であります。若し本畑等でありましたならば排水に注意せねばなりません。

晴天にポルドー液の撒布は豫防及び驅除の効があります。

腐敗病。本病も過濕と溫暖な氣候の場合殊に發生し易いものであつて冷涼な夜間の氣候は本病を抑制す事が出來ます。

尙本病の習性として始めの内は灰色の斑點が葉の表に表はれましてそれが次第に葉一面に覆ひ褐色に變じます。でありますから發病の始めに發見して拔除燒却するのが第一の豫防であり驅除でもあるのであります。

斑點病。本病は腐敗病に似て居りますけれども發病は葉の裏面から始まり暗褐色であつて病氣の

進むに従つて胞子は全葉を覆ふ様になります。

銹病。赤褐色の胞子の附着する事に依つて發病しますが本病はあまり大きな發生はない様にいはれて居ります。

根瘤病。本病は充分に施肥した土地に栽培した時等に發病を見る事は少なく、病状は根に多數の瘤を生ずるのであつて殊に連作した場合に多く發病するともいはれて居りますが本病に關してはあまり多くを知りません。

其の他のセルリの病氣としましては貯藏中とか軟白中とか或は温暖で濕潤な氣候の場合とかに Heart rot と云ふ病氣が發生する事があります。その病氣は文字通り心が腐るのでありまして始めは暗褐色或は黒色になりまして殊に貯藏中等多少の發生はやむを得んとまでいはれてゐる位であります。豫防の方法としまして貯藏中は通風を計るのと及び冷涼にする事は忘れてはなりません。又葉

部等に水分を着けぬ様にする事が肝要であります。

セルリの病氣の藥液に依る豫防法

多少の發病があるといふ事は到底免る可からざる事ではありますが出來得る限り被害を輕減せしめるといふ事は最も心せねばならぬ事であります。それには先づ苗床時代から注意して軟白を始める迄は少なくとも十日乃至二週間おき位に必ず相當の藥液の撒布といふ事を怠らぬ様勵行する事が重要な事項であります。

炭酸アンモニア液。是は特に腐敗病の豫防に有効であると稱されて居ります。その製法は一オンスの炭酸銅と同量のアンモニア水との水に溶解したものを九ガロンの冷水で稀釋したものが用ひられますが特に注意すべきは此の藥液の反應は必ず中性である様に調節せねばなりません。であります

せんと作物を害する事があります。

セルリ用ボルドー液。本薬液の製造には先六ポンドの新鮮な生石灰を少量の水で充分消石灰にして後二五ガロンの水を加へて石灰乳を造る事、是と同時に六ポンドの硫酸銅即ち丹礬を二五ガロンの水に溶かす事、この場合は前記の水の中へ前記の丹礬を綿布或は麻布等にて包んで垂下溶解せしめます。右二液を必要に應じて混合して使用するのであります。それには先づ五〇ガロンの容器を用意しておきまして前記二液を同時に注入してポンプ或は攪拌器等を用ひて充分攪拌して中和の有無を驗して使用するのであります。が此の混合液は數日間放置しますと石灰と銅が分離作用を起しまして作物に有害になりますから必ず新鮮なものを使用せねばなりません。

アンモニアボルドー液。此の薬は前記の石灰の代りにアンモニアを用ひて造るのであります。前記

の石灰乳が作物の葉を汚損しまして葉一面に白い斑點が出来るのを防ぐために使用されるものであります。結局前記ボルドー液の缺點を除いたものであります。が經費の點で極小規模か又は特別の事狀の許にのみ用ひられます。併し又石灰ボルドー液に依る汚點は少量の酸(酢を用ひて可)を多量の水に滴下してその水にて汚ふ時は頗る容易に除去する事が出来るのであります。

薬液の撒布の方法

此の仕事は相當重要なものといはねばなりません。

一朝發病を見ます時は爲に收穫を激減しますから事を未前に防ぐ事は最も必要な事といはねばなりません。それには苗床時代即ち多數が一ヶ所にある時代に充分に豫防しておく事は手數の點からいつても有利でありますから先づ此の時代に薬液

の撒布をしておかねばなりません。それから本畑に植出して後も少なくとも四——六回位は藥液の撒布を行はねばなりません。

藥液撒布の道具としましては所謂噴霧器を用ひればよいのでありますが規模が大きくなりますとそれに従つて種々の装置のあるのが出來て居ります。

清潔法

一般に耕耨をする時は雜草はもとより他の殘存作物をも畑に埋め込むものでありますがこの事は病氣豫防といふ點から見ても最も忌むべき事でありませぬ。即ち其れ等殘存作物に附着してゐる病原體は土中に潜伏して次期の耕作物に寄主を得て猛威を振ふの危険を考へねばなりません。

セルリの病氣に對する一般的注意事項

セルリの多くの病氣は總て傳染性のものであり

ますから傳染の慮ありと思はれる事は除く様に注意せねばならぬ事は當然の事でありませぬが先づ第一に作物其れ自身を強健に育てるといふ事が肝要な事は豈其作物栽培に於てのみならんやであります。次は被害された植物は如何に小片でありましても散亂させる事なく注意して集め焼却するといふ事も忘れてはならぬ事項であります。尙其の上に藥劑の撒布に依る豫防も怠らぬ様心せねばなりません。又セルリ畑の附近に雜草が茂つてゐる様な場合には最も注意を要するのは其の雜草の處分であります。つまり雜草に對しては病氣に對し何等豫防法を講ずる者はないとせねばなりません。でありますから一朝この雜草中に病氣の發生を見ます時はたちまちセルリ畑にも累を及ぼす事は推定に難くない事であります。でありますから附近の雜草の處置といふ事も大いに考慮せねばならぬ問題の一つであります。